

ぶどうの木



発行人 牧師 広田叔弘
企画編集 広報委員会
www.church.ne.jp/umegaoka/
2025年 7月27日発行

〒155-0033
東京都世田谷区代田 3-37-7
TEL : 03-3414-5772
FAX : 03-3414-5778

第265号 2025年 8月号



『神さまは味方』

牧師 広田叔弘

どんなことでも、思い煩うのはやめなさい。何事につけ、感謝を込めて祈りと願いをささげ、求めているものを神に打ち明けなさい。そうすれば、あらゆる人知を超える神の平和が、あなたがたの心と考えとをキリスト・イエスによって守るでしょう。

フィリピの信徒への手紙 4章6と7節

手紙を書いたのはパウロ。彼は「思い煩うな」と言います。まるで、しぶとく土中に広がる雑草の根を切るように、断言しています。過去のことを考えます。「あの時はもっとこうしておけばよかった」「別の道を選択していれば、今頃はこうなっていたらう」などなど。将来のことを考えます。「こうなったらどうする」「あんなったら・・・」将来のことです。先から学ぶことはあります。将来の計画を立てることは必要です。同時に不安や執着を強くして考えすぎれば、思い煩いになります。そこからは何も生まれません。

「感謝を込めて」とあります。思い煩うていと足りないところばかりが目につきまます。そして目の前にある幸いが見えなくなるのです。今ある幸いを覚えて、求めているものを

神に打ち明ける。その通りでしょう。

「コロナ後」と言われます。礼拝の出席者は減少し、新来会者が導かれません。教勢の衰退と信徒の高齢化は顕著です。多くの教会がこの現実の中にいます。このままでいけば日本の教会は、近い将来、合併や解散が相次いで起こるでしょう。これまでの営みを維持することはできません。さらに視野を広げれば、日本の既成宗教全体が力を失っています。「どうすればいいのだろう・・・」答えのない大きな問いを抱きます。思い煩うのです。

パウロは祈りを勧めた後、「人知を超える神の平和が、あなたがたの心と考えとをキリスト・イエスによって守るでしょう」と教えます。述べられている「神の平和」は、神が私たちの現実に満ちることです。心と体の必要を満たし、私たちの命を十全に生かしてくださることです。すなわち神さまが、私たちの完全な味方であることに気が付くことです。共に祈りましょう。主キリストによって、神さまは私たちの味方です。「お父さん」です。主を信じて開かれぬ道はありません。重要なのは、私たちが本心に祈ることです。主を信じて祈りをささげ、神さまが不動の味方であることを、現に知っていくことなのです。ここから明日への道は、必ず開かれます。